



帰国生の学校選び A to Z

●第28回●

帰国後を意識した米国での新生活の心構え

例年、現地校が新年度を迎えるこの時期には多くの子どもが日本から引越してきます。米国の学校での新生活に対する期待と不安でいっぱいのことでしょう。授業時間はもちろん、休み時間も英語を使わねばなりません。慣れるまでは大変ですが、がんばってほしいと思います。

保護者も米国での新生活に適応するのは大変ですが、帰国後の学校のことを意識して新生活を送ることをお勧めします。滞在期間、帰国時期、帰国後の住所などは様々です。どんなケースであれ、日本の学校に入学するためには学年相応の日本語での学力が必要です。帰国生入試を受験できるのであれば合格するのは難しくないかもしれませんが、入学後に苦労することもあるでしょう。また、帰国生入試でも難関国私立学校を狙うのであれば、高い学力が必要になりますし、場合によっては国内生と同じ入試を受験しなければならないこともあります。日本語での学力をつけるためには、補習校や学習塾などを利用することが望ましいですが、通学できない地域もあります。いずれにせよ、家庭で日本語での学習時間を確保することが課題となります。

一方で、帰国生受け入れ校では英語力を重視するところも目立ちます。高校入試では英検準1級合格者を優遇する学校がありますし、英検2級合格を入学条件とする学校もあります。中学入試でも英検2級合格を求めるような学校もありますし、入試科目として英語を課す学校もあります。つまり、帰国までに英語力をつけることも必要です。英語力の向上には個人差がありますが、まず英語を使うことが大切です。そのためには積極的に授業に参加したり、友人をたくさん作る努力をしましょう。多くの異文化の友人と話すことは、英語力の向上のみでなく、グローバルな考え方ができるようになるというメリットもあります。

何かと苦労することも多い米国での生活ですが、楽しく有意義に過ごしてほしいですね。

執筆者：丹羽 筆人（文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所 アドバイザー / 名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー 北米地域担当）

河合塾での指導経験を経て米国では CA・NY・NJ 州の補習校・学習塾にて指導。現在はデトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujec.org Phone & Fax 855-926-1140 (文京学院) E-mail nihs@ujec.org Phone & Fax 855-669-9300 (名古屋国際)

